

長谷川清道

ウイスキー樽職人
はせがわ きよみち

Kiyomichi
Hasegawa



半世紀という時の軌跡。 『神様』は、樽づくりとともに 人生を熟成させる。

ニッカウヰスキー 余市蒸溜所

凜と冷えた空気に、背筋が伸びる。

ここは、余市のニッカウヰスキー北海道工場。広い敷地の一角にある製樽棟に、後輩たちの作業を見守る厳かなまなざしがあった。

長谷川清道氏、73歳。余市のウイスキー樽の9割を手がけた名職人である。40年以上、ウイスキーのゆりかごをつくり続け、退職後も若い職人たちに技を伝えるため足繁く工場へ通っている。

「樽づくりの神様」——深い尊敬と憧れをこめて、後輩である弟子たちは長谷川師匠をこう呼ぶ。

**「良い樽をつくってくれ」
創業者の言葉に
やり抜く決意を固めた**

ちょうど半世紀前、23歳の長谷川氏はニッカウヰスキーの門をくぐった。実家が桶屋だったことから、すぐに製樽の現場へ配属された。

ニッカウヰスキーの創業者であり、日本のウイスキーの父と呼ばれる竹鶴政孝は、ウイスキーづくりの理想郷を探し求めて日本各地をめぐり、そして本場スコットランドの気候風土によく似た余市にた